

性暴力とSNS

ーネット社会を生きる子どもを守るー

ニュースで時々耳にするSNSによって出会ったおとなから子どもへの性暴力の問題。子どもたちがSNSで出会ったおとなの家に宿泊して性被害に遭う。。寂しさからネット依存になる。。

出会いを求めた先にある性暴力被害に対し、日本社会は「自己責任」や「不良少女/少年」と決めつけ、切り捨てる風潮があります。

なぜこのような問題が起きるのか？社会問題の根底にあるリスクについて考えたいと思います。

前半の基調講演では、仁藤さんにはColaboの活動の紹介、活動の中で感じたSNSの危険、おとなたちに対する問題提起をしていただきます。宮崎さんには法整備、情報モラル教育、フィルタリングの普及など、様々な対策を施しても犯罪がなくならない原因はどこにあるのか？犯罪に巻き込まれる子どもと巻き込まれない子どもの違いは？等様々なネット問題に向き合ってきた立場からお話を伺います。

後半のトークセッションでは、コーディネーターとしてAWC代表のマリ・クリスティーヌが加わり、前半のお話を更に掘り下げ、問題の本質に迫りたいと思います。

日時：2018年8月4日(土) 13:00~15:00

12:45：開場

会場：かながわ県民センター 301号室

(横浜駅西口・北西口より、徒歩5分。横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2)

参加費：無料 ※ 予約優先

講師：仁藤 夢乃 (にとう ゆめの) 一般社団法人Colabo代表

宮崎 豊久 (みやざき とよひさ) インターネットポリシースペシャリスト

マリ・クリスティーヌ アジアの女性と子どもネットワーク代表・東京女子大学特任教授

※ 予約優先 7月11日よりメールにて受付

E-mail : awc@h6.dion.ne.jp

開場から開始時間までが短くなっています。ご了承ください。

お問い合わせ アジアの女性と子どもネットワーク

所在地 : 〒231-0015 神奈川県横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F YAAIC内

E-mail : awc@h6.dion.ne.jp

URL : <http://www.awcnetwork.org/>

講師プロフィール



仁藤 夢乃 (にとう ゆめの)

一般社団法人Colabo代表

1989年生まれ。中高時代に街をさまよう生活を送った経験から、女子中高生の支援を行っている。夜間巡回や声掛け、相談。シェルターでの一時保護や宿泊支援。食事・風呂・文具・衣類の提供。児童相談所や病院、警察などへの同行支援。自立支援シェアハウスや虐待や性暴力被害を経験した少女たちの自助グループの運営を行っている。第30期東京都青少年問題協議会委員を務めた。

著書

『難民高校生—絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル』(英字出版2013.3、筑摩書房2016.12)

『女子高生の裏社会—「関係性の貧困」に生きる少女たち』(光文社新書2014.8)



宮崎 豊久 (みやざき とよひさ)

ネットスター株式会社所属。「インターネットポリシースペシャリスト」・日本思春期学会幹事、横浜市学校課題解決支援事業専門家、学校ネットトラブル相談窓口専門家として『青少年問題課題解決』の調査・研究や啓発活動を行っている。

平成13年から米国シリコンバレーのフィルタリング企業プロジェクトマネージャー、ヤフー株式会社フィルタリングデータ部門責任者、財団法人インターネット協会主任研究員を歴任。

また、警察庁外郭団体インターネット・ホットラインセンターのシニアアナリストとして国際刑事警察機構等、海外機関の国際会議等で、日本のインターネット犯罪の状況解説などに参加。ちば思春期研究会理事。



マリ・クリスティーヌ

アジアの女性と子どもネットワーク代表・東京女子大学特任教授・異文化コミュニケーター。

アメリカ人の父と日本人の母の間に東京で生まれる。幼少期から諸外国で生活し、70年に日本へ単身で帰国。上智大学卒業。大学在学中に芸能活動開始。国際会議、コンサートの司会など、数ヶ国語に精通し、堪能な語学力を生かして活躍。

94年に東京工業大学大学院で修士号を取得。専攻した社会工学をもとに、国際的な都市計画や、まちづくりに関わるとともに、2000年～2015年まで国連ハビタット親善大使を務める。

著書 「お互い様のボランティア」(ユック舎) 「女性に優しいまちづくり」(ユック舎) など



第25回 AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

…#リアルとつながる…

日時：8月3日(金)～5日(日) 10:00～17:30 (最終日16:00)

会場：かながわ県民センター(横浜駅 徒歩5分)

昨年の「リアルとであう」に続いて、今年のテーマは「#リアルとつながる」です。

AIDS文化フォーラムは、1994年に横浜で開催された「第10回エイズ国際会議」の時にNGOや市民の力で開始されました。医療や福祉の問題だけでなく、HIV感染者やAIDS患者を病気と共に生きる人間としてとらえること、そしてすべての人間が、HIV/AIDSに関わりを持ちながら、日常の生活・社会的活動に関わっているという側面を大切にしたいという考えで「文化」の2文字を入れたフォーラムとして、幅広く様々な活動が報告されます。

AWCは1階にて、パネル展示とタイの手工芸品、ストリートチルドレンやスラムの女性たちが作ったフェアトレード品等の販売を行います。是非お出かけください。